

世界で最悪の侵略的植物 「ナガエツルノゲイトウ」

■生態

原産地：南アメリカ

科 目：ヒユ科

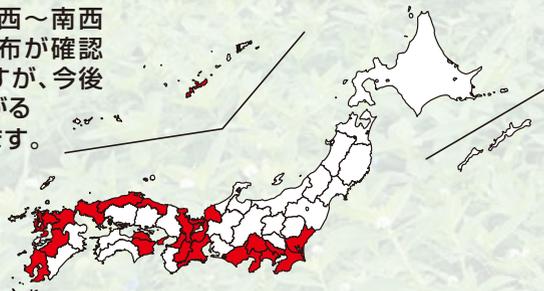
出芽期：関東地方では3月中旬～4月 ※場所により異なる

開花期：4月～10月頃 ※一年中開花することもある

越 冬：水中や暖地では枯れずに越冬することがある。霜が降りる地域では、通常12月以降に地上部は枯死し、地下茎の状態越冬する。

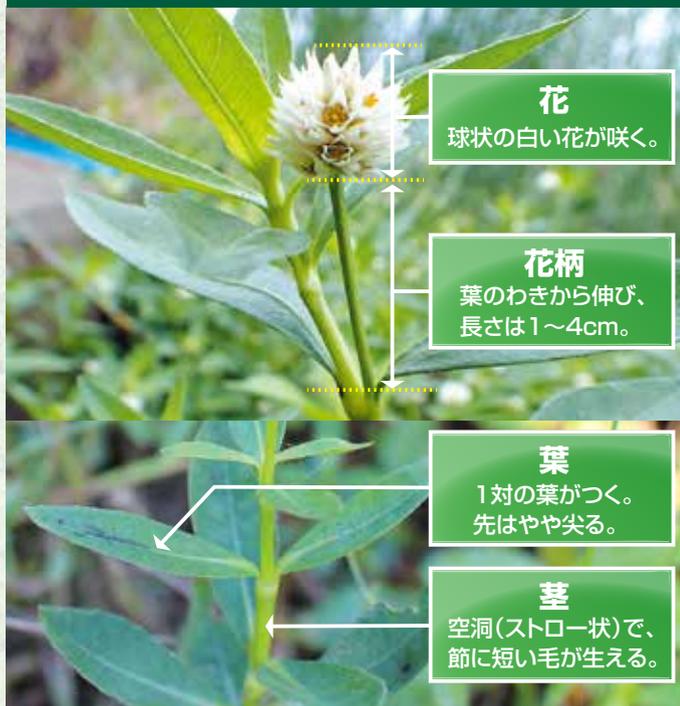
■分布

関東地方以西～南西諸島への分布が確認されていますが、今後は全国に広がる恐れがあります。



■：ナガエツルノゲイトウが確認された都道府県(令和5年現在)
出典：国立研究開発法人 国立環境研究所

■形態



強い拡大力、再生力に注意!

国内のナガエツルノゲイトウは種子を形成しませんが、容易に節から発根するので、**一節でもあれば数cm程度の茎断片からも簡単に再生**します。茎はちぎれやすく、水に浮くため、水の流れによって運ばれ拡散します。



茎は節から根を出して、1m以上も伸び、横に這って生長する。枝分かれも盛んに行う。



越冬した匍匐茎の断片。翌春になると萌芽、再生する。



茎の断片の節から萌芽する個体。

拡散のイメージ



断片の拡散



定着



繁茂

主な侵入場所と主な影響や被害



河川



水路



水田周りや畦畔



水田内

- 通水の障害
- 用排水機場のポンプ等への負荷や詰まり

- 水稻の生育障害や減収
- コンバインへの絡みつきによる収穫作業の障害

水田・水田畦畔での防除のポイント

茎の断片から拡散するおそれがあるため、発生が認められた圃場畦畔では刈り払い機による除草は避けましょう。



未侵入の水田では水口(給水栓等)に網を設置し、茎葉の流入を防ぎましょう。また、農機は未発生場所から使用し、使用後はよく洗浄しましょう。



水田や水田畦畔では除草剤の使用を検討しましょう。畦畔では**バスタ液剤**など、**植物全体を枯らす除草剤が有効**です。



水田畦畔のナガエツルノゲイトウの防除には、**バスタ[®]液剤**がお勧めです

※登録内容に従い、使用場面や使用方法に注意してお使いください。ナガエツルノゲイトウは、繁殖力、再生力が非常に強く、断片からも再生するため耕種防除や他剤との体系防除等の粘り強い対応が必要です。

■ナガエツルノゲイトウへのバスタの効果 2023年 (公財)日本植物調節剤研究協会研究所 千葉支所

●ナガエツルノゲイトウ 生育期(草丈30cm以下)処理時



- 試験規模及び反復: 2.5m²(1.2m×2.1m) 3反復 畦畔平坦~法面
- バスタ液剤処理日: 2023年5月28日
- 試験時の草丈: 22cm
- 調査日: 2023年6月17日(処理後20日)

●ナガエツルノゲイトウ 本田侵入前(草丈20cm以下)処理時



- 試験規模及び反復: 2.5m²(1.2m×2.1m) 3反復 畦畔平坦~法面
- バスタ液剤処理日: 2023年5月4日
- 試験時の草丈: 12cm
- 調査日: 2023年5月21日(処理後17日)

■バスタのメリット

- 除草時間を短縮でき、省力化できます。
- 畦畔を崩しません。
- 水田の他、レンコン、いぐさなどの水系作物の畦畔で使用できます。

水田畦畔へのバスタの使用については、こちらをご覧ください。



草丈30cm以下のナガエツルノゲイトウに対して高い除草効果が認められ、処理後20日程度、生育を強く抑制しました。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記載しましょう。



BASFアグリソリューション
Facebook

BASFジャパン株式会社

東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階
☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp/>



BASFジャパン
HP